

令和8年度 第2回生駒市総合計画審議会（第二部会） 会議録

開催日時 令和8年6月16日（火） 14時00分～15時57分

開催場所 生駒市役所4階401・402会議室

出席者

（委員）久部会長 森委員 浦久保委員 尾崎委員 唐金委員 水野委員

（事務局）企画政策課

（担当課）危機管理課 地域共生社会推進課 事業計画課 土木課 総務課（消防）

予防課 警防課 消防署 防犯交通対策課 消費生活センター 環境保全課

土木課 脱炭素まちづくり推進課 環境保全課 清掃リレーセンター 建築課

欠席者 田中委員

議事内容

1 各施策の検証

2 その他

【事務局】 （開会宣言、配布資料確認）

以下、発言要旨

基本的施策8 防災・減災・消防

施策の主な方向性1 災害対策・危機管理体制の強化

【久部会長】 事業レベルでの記載が多い。各事業がどれだけ頑張ったかは分かったが、最終的には施策目標への到達レベルが全体評価となるので、自助・共助・公助が協働してどうなったかを分かるように記載していただきたい。

公助は一定の効果が出ていると思うが、共助・自助については、まだまだ課題が残っているということだと思う。そこが分かりやすくなるよう記載していただきたい。

また、この施策に限らずだが、関心の高い層には届いているが、そうでない層に届けるかが重要。施策目標の実現に向けた今後の取組の方向性の記載について、抽象度が高い。具体的に今年度以降の工夫を教えていただきたい。

【危機管理課】 ご指摘のとおり、自助と共助の取組については、十分に進展していない。

昨年度は4年に1回の総合防災訓練の年で、その中で様々なイベントを

行い、なかでも自治会に避難所単位での取組を中心に大きくやっていただいた。

平時は自主防災会であったり、各自治会において防災訓練や勉強会をしていただいているが、一つの避難所に対して関係する自治会が3～6程度あることから、避難所単位で物事を考えるという視点が重要であると考え、昨年度は重点的に取り組んできた。

今年度については、昨年度に市民向けに実施した避難所のレイアウトや運営のあり方に関する研修を踏まえ、地域単位での実施の必要性が認識されたことから、避難所レイアウト研修を地域単位で実施している。

【久部会長】 こどもが楽しみながら学べるような取組は広がっているのか。

【危機管理課】 危機管理課単独での取組はできていないが、NPO 法人市民活動サークルえんと協働し、こどもが参加しやすいゲーム性の高い防災訓練や防災勉強会を実施したいと考えている。

【久部会長】 真面目な防災の取り組みは自治会を中心にすでに広がっていると思う。「楽しみながら学べる防災」を広げていていただきたい。

他市でも、市役所単独でなくアイデアや行動力を持っている方と協働し、取り組んでいる事例がある。そういった取組を期待している。

【危機管理課】 昨年度の取組の中で、こどもを巻き込む、楽しめるような要素を入れていくといったアイデアは自治体から示されており、今後の取組の方向性の一つとして位置付けている。

【久部会長】 質問により出てくる従来型とは異なる取組についても、ぜひ検証シートに記載していただきたい。

事業者との協働という点ではどうか？

【唐金委員】 事業所において消防訓練を単独で実施している。

【久部会長】 福知山線脱線事故において、事業者の迅速の対応が減災につながった事例がある。事業者の協力を得ることも検討してみてはどうか。

【危機管理課】 市単独では大規模災害時には対応できないため、事業者との連携が重要だと認識している。本市においても、既に100以上の事業所と協定を締結し

ているが、１０年以上前に締結した協定が放置されているという現状があり、昨年度から見直しに取り組んでいる。

また、特に道路啓開については、建設業協会と災害時を想定した連携を綿密に行っている。

【久部会長】 そういった先進的な取組を、より強調して記載していただきたい。

施策の主な方向性２ 火災予防・救急対応力の向上

【浦久保委員】 課題の部分で住宅用火災警報器の普及は十分とは言えないとあるが、生駒市は火災警報器の共同購入や設置の支援をされており先進的だと認識している。目標値や現状値の数値化ができていないのではないかな。

数値が示されれば、未設置の住宅に対しても設置を促すきっかけになると考えられる。

【久部会長】 数値が記載されているものもあるが、この記載だけでは評価の良否が判断できない。良いと判断する根拠があれば示していただき、取組による効果の内容とその根拠【D】欄に追記していただきたい。

その根拠をもとに施策目標の実現に向けて得られた成果【C】欄を記載いただきたい。数値による記載が難しいのであれば、エピソードによる記載でも構わない。

【唐金委員】 生駒市ではほとんど火災に遭遇したことがない。市民・事業者の防火意識がかなり高いのかと思う。そういった良い点もPRしてはどうか。

【久部会長】 市民のいのちと暮らしを守るというアウトカムがどのような状態にあるのが最も重要なため、その状況について記載していただきたい。その状況につながった取組を具体的に整理していただき、市民意識が高いのか、予防的取組が功を奏しているのか、そこを分析していただきたい。他市比較等の視点も取り入れていただきたい。

【尾崎委員】 居住しているマンションにおいて防火訓練が話題になる。年１回住民全員が集まる形式は負担が大きいため、行政において、簡単に受講できる防災訓練の動画などを提供している事例はあるか。

【予防課】 市ホームページにおいて各種防災動画を配信している。

【久部会長】 バイスタンダーの率が 51.9%となっており、去年と比較し下がっているのは成果と言えるのか。実施率 100%を目指すとのことだが、この場合の分母は何を指すのか。

【警防課】 分母は心肺停止者数である。

【久部会長】 実施率が上がらない理由はなにか。

【警防課】 CPR が実施しにくい場所で発生している場合や、バイスタンダーが高齢者で対応が困難な場合、また現場がパニックにある場合など、様々な要因がある。
その改善のため、応急手当等を取り組みやすいものとして普及啓発を行っているところであるが、実施率は伸び悩んでいる状況である。

【久部会長】 今お聞きした内容と施策目標の実現に向けた今後の取組の方向性【A】欄の記載内容との間にはずれが生じている。問題が生じている要因と今後の取組の方向性がリンクするように分析し記載いただきたい。

【久部会長】 本施策全体について、意見はあるか。

【委員一同】 なし

基本的施策 10 生活環境

施策の主な方向性 1 環境美化・公害対策の推進

【久部会長】 施策目標に対して成果が出ているところに絞って記載いただきたい。この方向性については、課題がないことが一番重要で、生駒市では公害に関する数値がすべて基準内に収まっており、環境美化の面ではポイ捨てがあまり起こっていないことが一番のアウトカム指標だと認識しているので、積極的に PR していただきたい。

【森委員】 たばこのポイ捨てが最初に出てくるが、普通のゴミではなくたばこにフォーカスして書くことの意味は何か。生駒市でたばこのポイ捨てが大きな問題になっているなどの理由があるのか。

【久部会長】 市として重要な要素、強調すべきところを判断していただいたうえで記載をすると、見え方が違ってくる。

現状の課題がないのであれば、今後の取組の方向性の記載も不要と考える。

施策の主な方向性 2 防犯・消費者保護対策の推進

【尾崎委員】 特殊詐欺の被害件数が減少しているが、全国的には増加傾向にあると認識している。実際はどうか？

【消費生活センター】 昨年、特殊詐欺等多発警報を発表し、その期間中は被害件数が0件の月が続いたが、警報解除後に被害が増加した。今年に入ってから増加傾向が止まらず、今年3月25日にITBという特殊詐欺撲滅チームを立ち上げ、地域全体で未然防止に向けた取組を開始した。

【久部会長】 警報解除と被害件数の増加に直接的な因果関係はあるのか。それが効果的なら出し続けたら良いのではとなるので、もう一步踏み込んで分析しても良いのでは。

【防犯交通対策課】 因果関係の分析は非常に難しいところがあるが、数値は出ているため、一定の成果があると認識している。

一方で、警報は出し続けることで気の緩み等も生じ得るため、解除は避けられない。

3月末日から開始した取組であるため、現時点では効果の把握はできていないが、ITBによる取組を通じて、警報発出時と同様に特殊詐欺被害の抑制につなげていきたいと考えている。

【尾崎委員】 特殊詐欺グループは常に新しい手口を考えている。一定の効果があるのであれば警報を続けることも検討して良いのでは。

【浦久保委員】 解決すべき課題として行政や警察だけで対応するには限界があるとあるが、それに対応した方向性はないか。

【防犯交通対策課】 若い世代に向けて、SNSにおけるターゲティング広告を試行的に行っている。

【久部会長】 中学校、高校との連携はしているのか。

【防犯交通対策課】 高校には啓発のチラシを夏休み前の個人懇談の時期に配布しており、小学校、中学校の方に対しては金融リテラシー講座の方を開催してい

る。

【久部会長】 行政はチラシの配布で終わってしまいがちであるが、実際に読まれているかどうかは把握できておらず、そこを追いかけるべきである。

また、大学生を対象とした経験から、若年層は情報を深く考えにくい面があるため、情報発信やツールの問題だけでなく、リテラシーを高める教育が必要である。それは学校教育の役割でもある。教育分野との連携を期待している。

【久部会長】 情報セキュリティが大変不安な世の中になっている。実際に誰もが身にふりかかる時代になった。行政としても対策を強化していただきたい。

施策の主な方向性 3 交通安全対策の推進

【久部会長】 この方向性における一番のアウトカム指標は交通事故の件数となるだろうが、各事業のアウトプットの記載でとどまっている。市営駐輪場の取組等は事業レベルであればそれでよいが、全体的なアウトカムにつながっていない。生駒市の交通事故の件数はどうなっているのか。

【防犯交通対策課】 死亡事故件数は0件だが、自転車事故が増えている状況。安全運転に対する意識啓発の取組は随時取り組んでいる。

【久部会長】 そういった内容をこのシートに記載していただきたい。何度も市営駐輪場の話がでてくるが、それが施策目標に対するアウトカムにそこまで重要な気はしない。メリハリをつけて記載していただきたい。

【久部会長】 本施策全体について、意見はあるか。

【唐金委員】 竜田川が緑色に変色した事件があったが、市は原因を把握しているのか。

【環境保全課】 原因は明確になっている。

【唐金委員】 穴虫川の下が田んぼになっており、すぐに工業団地に苦情がくるが、原因はわからないことが多い。市はどのように対応しているのか。

【環境保全課】 ケースバイケースで対応している。通報を受けたら速やかに現場確認および原因追求を行っている。必要に応じて県とも情報共有を図りながら、地域の方に必要な情報を発信しつつ、対応に当たっている。

基本的施策 1 1 脱炭素・循環型社会

施策の主な方向性 1 住宅都市における脱炭素化の実現

【尾崎委員】 太陽光パネルの設置補助に関して、パネルの設置業者から、住民に情報が行き届いておらず、業者から伝え聞いて住民が初めて認知されるケースが多いと聞いた。

【脱炭素まちづくり推進課】 市内の事業者とも連携し、事業を進めていきたい。説明会も実施し、また、自治会の協力を得て、対象の全世帯にチラシのポスティングを行った。ただ、チラシを見られていない方もおられる可能性があるので、引き続き自治会にも協力をいただき、周知を続けていく。

【久部会長】 チラシのデザインは工夫を施したのか。一番大きく記載されたキャッチフレーズは何か。

【脱炭素まちづくり推進課】 費用の3分の2が補助されることを大きく記載した。

【久部会長】 「今ならお得」と伝わるような心を動かすキャッチフレーズを記載すべき。

【脱炭素まちづくり推進課】 今後、レイアウト等を工夫する。

【尾崎委員】 協力いただく事業者はどのように募集しているのか。

【脱炭素まちづくり推進課】 補助事業に協力いただく事業者を募集し、登録事業者という形で取りまとめ、住民に周知しており、奈良県外の事業者も登録されている。

【尾崎委員】 登録事業者の登録が外れる場合はあるのか。

【脱炭素まちづくり推進課】 市で財務状況等の確認を行った上で、登録いただいている。営業時のルールを定めており、強引な営業行為などで苦情が続くことがあれば、市から指導を行うことはあり得る。

【浦久保委員】 自治会を巻き込んで周知をする方法はいいことだが、一定の負担もある。また、太陽パネルを設置するかしないか選択肢を設けることができるよう

周知を行ったことも成果であり、設置の達成率が成果の全てではない。

【久部会長】 成果が事業単位のアウットプットで書かれているが、めざす状態である「協働により」ということを意識して、より端的に書かれているとわかりやすくなる。取組による効果の内容とその根拠欄に具体的な内容は記載し、成果欄と書き分けてほしい。また、課題と今後の取組の方向性が一対になっていない。既に設置されていた設備を取り外し、新たに設置個所を増やしていく方向性と捉えたらよいのか。

【脱炭素まちづくり推進課】 当初、公共施設に最大限太陽光パネルを設置する計画を立てていたが、老朽化等により設置できない施設が想定よりも多かった。そのため、公共施設ではなくて、新たに拡大したモデル自治会内の住宅や民間施設への設備導入を促進することで、目標とするパネルの設備容量を確保したいと考えている。

【久部会長】 現状の記載内容では読み取れない。公共施設には太陽光パネルが設置できないので、公共施設以外の住宅に設置してカバーしていくと、ストレートに記載すべき。太陽光パネルは軽量化されているので、新しいパネルを使用すれば設置できる公共施設も増えているのではないかな。

【脱炭素まちづくり推進課】 重さが妨げになっているのではなく、屋上防水シートの老朽化等が主な理由である。

【久部会長】 公共施設のZEB化は進んでいるのか。他市の事例では、環境部局がZEB化を進めようとしても、財政部局がイニシャルコストを理由に予算化させないケースもあるが、市が率先してZEB化に取り組んでほしい。

施策の主な方向性2 環境負荷低減に向けた取組の推進

【久部会長】 この方向性も事業ベースで記載されているが、環境負荷の低減は進んでいる理解でいいのかな。

【環境保全課】 そのように認識している。

【久部会長】 細かく成果が記載されているが、環境負荷の低減が進んでいることが読み取れない。具体的に環境負荷低減が図られた取組の事例を記載してほしい。もったいない食器市は伝統的な行事になっており、新たに始めた事業や特に成果

のあった取組を記載し、PRにつなげるべき。

【環境保全課】 まちのえきでのリユース市には力を入れて、昨年度5回開催した。

【久部会長】 昨年も確認したが、ごみ排出量が去年から大幅減になっている要因は何か。

【環境保全課】 剪定枝についてこれまで清掃センターで焼却処分していたものを、民間事業者で発電エネルギーに変えるリサイクルに変更したことで減少したと考えている。

【久部会長】 市民側はごみ削減に対してこれまで以上に取り組む必要があるのか。

【環境保全課】 家庭系ごみも一般廃棄物の処理基本計画に基づき、減量に取り組んでおり、現在は順調に進んでいる。

【久部会長】 次期計画では、一人当たりのごみ排出量を指標としたほうが削減効果を示すかもしれない。

【環境保全課】 今後、指標のあり方を議論していきたい。

【久部会長】 市民の努力を生み出すための指標として、総量は分かりにくく、一人当たりの排出量を示した方がわかりやすいと感じる。

施策の主な方向性3 脱炭素・循環型ライフスタイルへの転換

【唐金委員】 弊社ではプラスチック成型を行っており、対馬の海洋ごみを持ち帰り、洗浄し、その一部を配合した製品を作っている。対馬の海岸ではごみを回収しても、また新たなごみが流れ着く現状があるが、対馬市は対馬だけの問題と捉えず、日本全体の問題として、大きな予算をかけて回収に取り組んでいる。対馬市職員も1週間に1回、10tバグにごみを回収する作業を行っており、その姿を市民が見て、小中学生が応援に来ていと聞いた。生駒市でも市民の心を動かすような取組ができないか。

【久部会長】 生駒市民が対馬に行き、それを体感できる機会を設けてもいいと思う。

【唐金委員】 ごみは循環しているので、どこかで意識を変える必要がある。

【久部会長】 環境問題は問題が自分の目の前から消えると解決したと錯覚するため、根本的な解決に至らない。自分が捨てたごみを追いかけることができる啓発活動にも取り組んでほしい。また、環境問題に対する意識の高い市民には届くが、それ以外の市民に届けるための工夫はどの取組になるか。

【脱炭素まちづくり推進課】 環境政策や啓発を進める上で市が直接できることには限界がある。そこでアクションネットワークを作り、民間企業や団体が連携し、民間主導の啓発や地域活動の活性化促進を行っている。これまでは会員数を増やして、裾野を広げることを意識してきたが、今後、具体的な活動に結びつけるために今年度から試行的に取組を進めていく。

【環境保全課】 こども5Rアドバイザー教室に取り組んでおり、限定的ではあるが、こどもを通じて、親にアプローチするべく、小学校4年生を対象に毎年開催している。当初はごみの学習を目的に始まった教室だったが、近年SDGs等分野を広げて、環境を学んでいる。

【久部会長】 他市の事例で、小学校の体験学習は記憶にないケースもあった。問題を認識できることができる中学生になってから取り組む方が、効果が高いのではないか。また、福祉など他の分野で社会活動を行っており、社会的関心が高い方々にターゲットを絞って呼びかけた方が効果的だと思う。

【浦久保委員】 今後の方向性に実践事例の発信と記載されているが、具体的にどのような事例を発信されるのか。

【環境保全課】 台所回りのごみを中心となるが、「使い切り・食べきり・水切り」の3きり運動を発信している。

【浦久保委員】 探さなければ出てこない情報発信は、啓発になっていない。全体的な課題はそこにあると認識している。そういった情報にアクセスしやすい環境を整えることも重要な施策のひとつであると考えため、ぜひ取り組んでいただきたい。

【環境保全課】 令和7年に基本計画の見直しを行い、同様の指摘があった。市としてはホームページやXを活用し、発信しているつもりだが、関心のない層に届けられていないという課題がある。様々な規制の中で実施できる取組が限られ

ており、十分に行き届いていない状況である。

【久部会長】 経費がかかることでもメリハリとコスパを考えて、積極的に取り組んでいくことが重要。市が情報発信しているページのPV数は把握できているか。情報を掲載するだけでは不十分であり、効果検証を行い、本当に行き届いているか、成果が上がっているかを確認する必要がある。

【久部会長】 再生プラスチックを活用しているなど、環境に配慮した市内事業者を市がPRする取組はあるのか。

【環境保全課】 報道発表や出前講座などでPRしている。

【久部会長】 市民の購買意欲につながって初めて、事業者とウィンウィンの関係になってくる。環境活動と経済活動が連携する取組を進めていただきたい。
環境活動は負担感をいかに払拭できるかがポイント。わざわざ感をなくすことが大事。

【久部会長】 子育て中の母親たちがこども服のリサイクルをする団体が増えているが生駒市ではどうか。若い市民でも意識の高い方が様々な活動を始めている。その方々とネットワークを組めると、その世代にアプローチすることができる。関心を持つ人は様々な場所におられるのでそれを掘り起こすための工夫に期待している。市民活動推進センターとの連携にも期待している。

【脱炭素まちづくり推進課】 SDGsアクションネットワークも、企業だけではなく団体も加入できるネットワークになるが、今後も意識して進めていく。

【久部会長】 まちのえきで環境活動に取り組み始めているところもある。熱心に取り組む自治会をPRしてほしい。

【脱炭素まちづくり推進課】 脱炭素先行地域のモデル自治会はまちのえきのような拠点活動をするを条件として選定している。地区ごとの先進的な取組について、今後発表する機会を設けたい。

【久部会長】 企業、地域、市民活動団体、それぞれとの関係性を仕分けて記載されると多様な主体との連携が具体的に伝わると思う。

【久部会長】 本施策全体について、意見はあるか。

【委員一同】 なし

【事務局】（庶務連絡、閉会宣告）